

横浜市インフルエンザ流行情報 5号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

【流行中】昨年と同じペースで インフルエンザ報告数が増加しています

【概況】

2017年第50週(12月11日～17日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **8.48** と、第49週の5.21^{※2} から、さらに増加し、市内では6区で流行注意報発令基準値の10.00を超えています。

年齢別では、第50週で10歳未満の報告が全体の約6割、15歳未満の報告が全体の約8割となっており、小児の報告が多くを占めています。

今シーズンの学級閉鎖等の発生は、第50週に20件の報告があり(保育所・幼稚園2件、小学校18件)、報告数は累計62件^{※2} となりました(保育所・幼稚園4件、小学校54件、中学校2件、高等学校1件、その他1件)。また、新たに病院や高齢者施設での集団発生も報告されています。持ち込み防止対策を徹底しましょう。

第50週の迅速診断キットの結果は **A型73.6%**、**B型25.9%**、A・B型ともに陽性0.5%と、A型が多く検出されています。

今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、正しい手洗い^{※3} 等の予防や早期受診などの対策^{※4} が重要です。

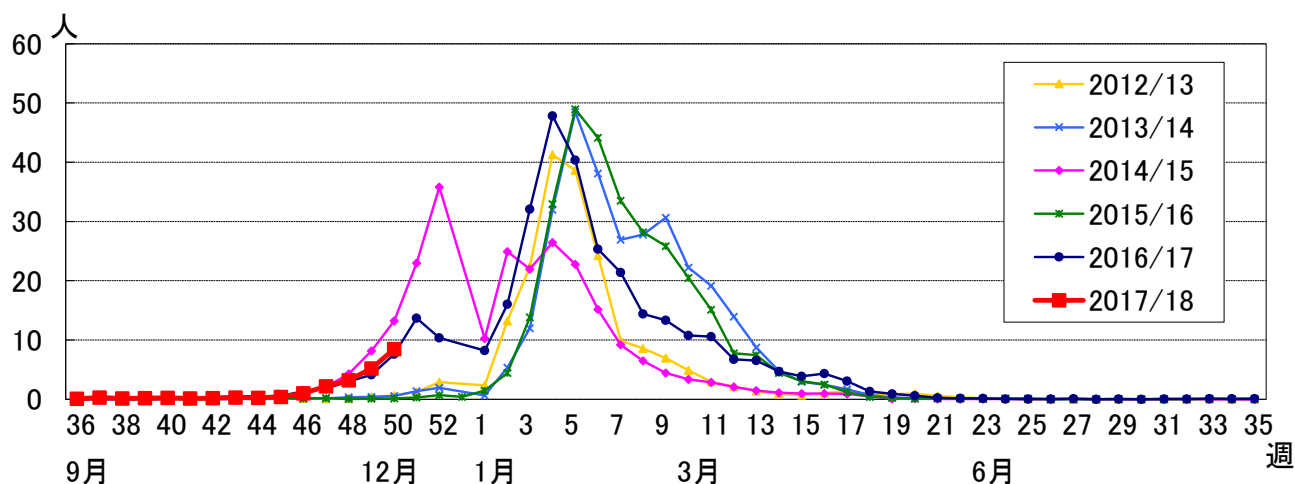
※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

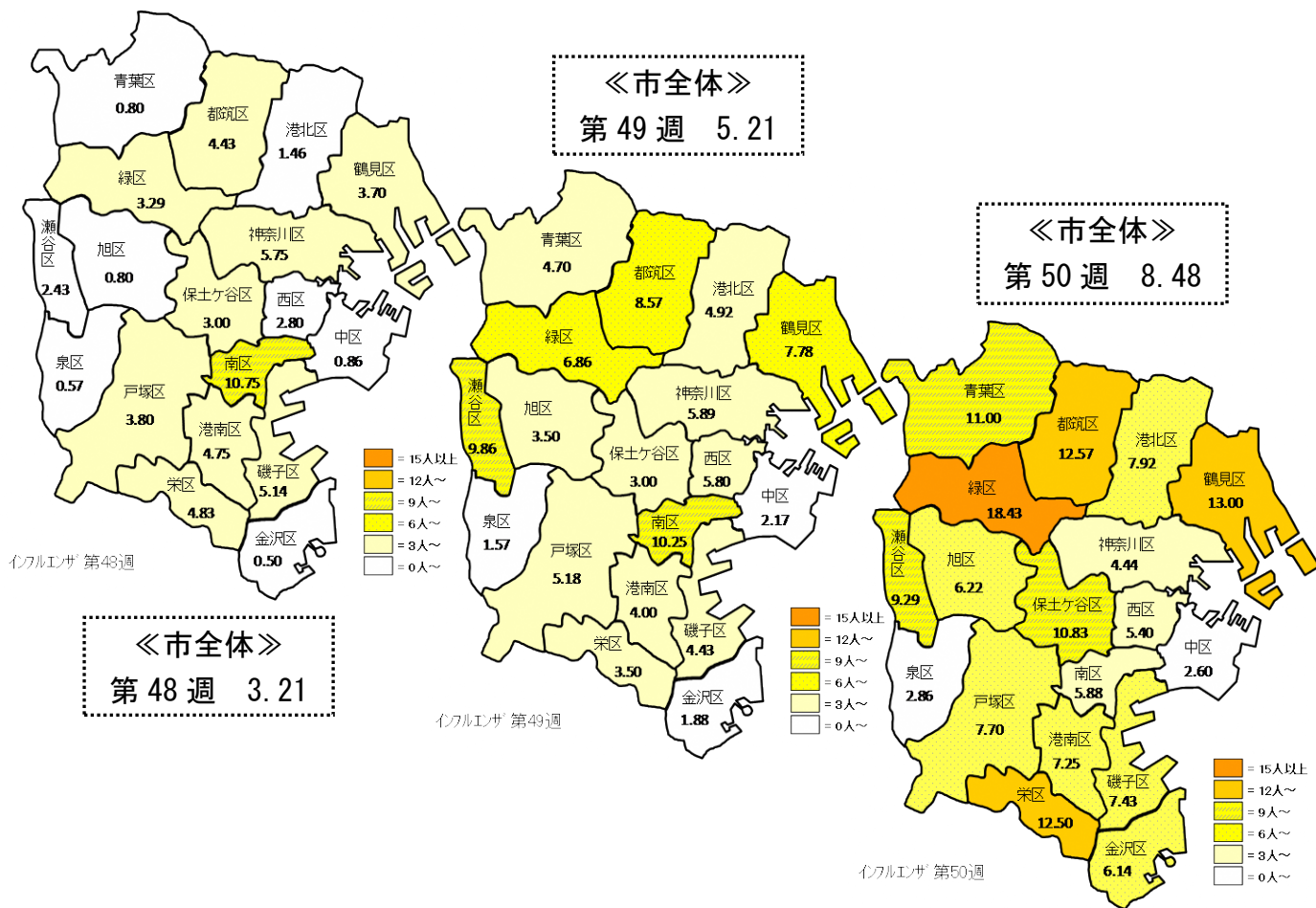
※3 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※4 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第50週で **8.48** となっており、流行開始となった第46週の1.01、第48週の3.21^{※2}、第49週の5.21^{※2} から、さらに増加しています。



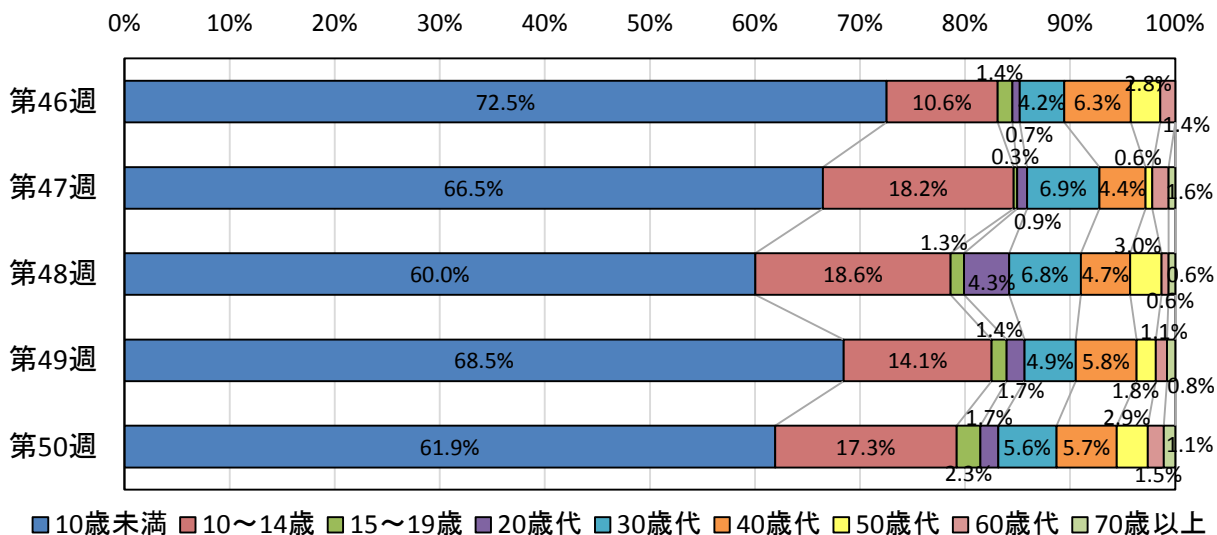
2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



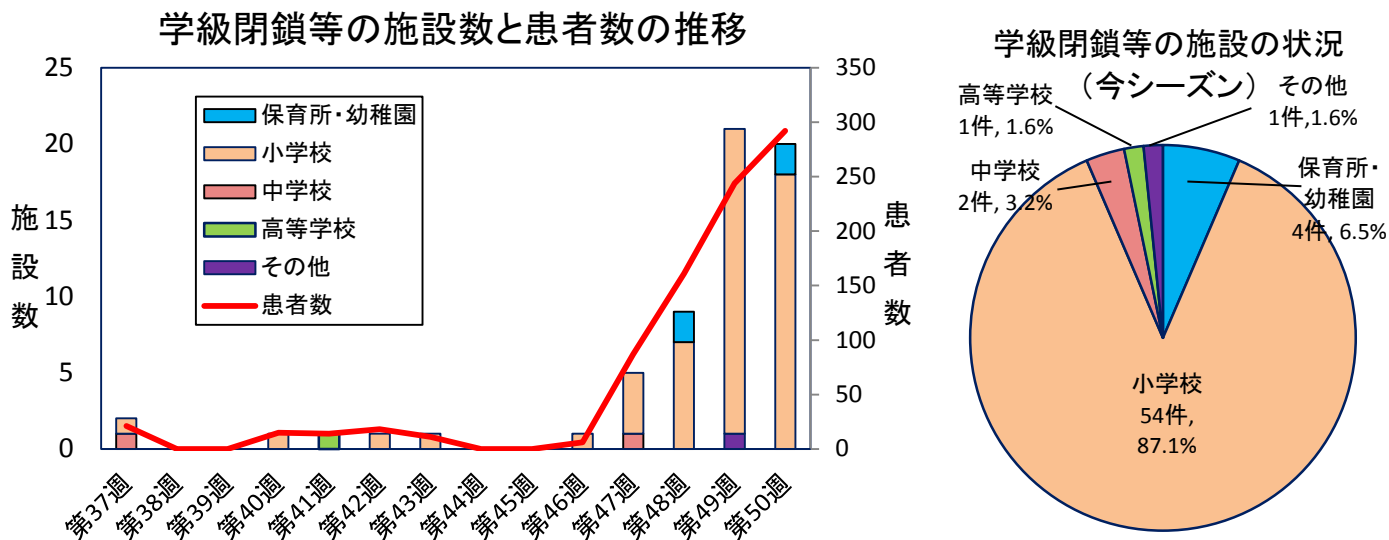
市内全体で定点あたり 10.00 を超えると、流行注意報が発令されます。昨シーズンは第51週(12月19日~25日)で発令されています。

3 年齢層別集計:第50週の患者年齢構成は、10歳未満が全体の61.9%、10歳以上15歳未満が全体の17.3%を占めており、15歳未満が全体の79.2%を占めています。また、60歳以上は全体の2.6%となっています。

年齢層別患者割合



4 市内学級閉鎖等状況:今シーズンは第 50 週までに累計 62 件^{※2}が報告され、報告された患者数は延べ 869 人となっています。特に第 47 週以降は急激に増加しています。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園 6.5%、小学校 87.1%、中学校 3.2%、高等学校 1.6%、その他 1.6%となっています。第 50 週は 20 件の報告があり(保育所・幼稚園 2 件、小学校 18 件)、報告された患者数は 292 人でした。



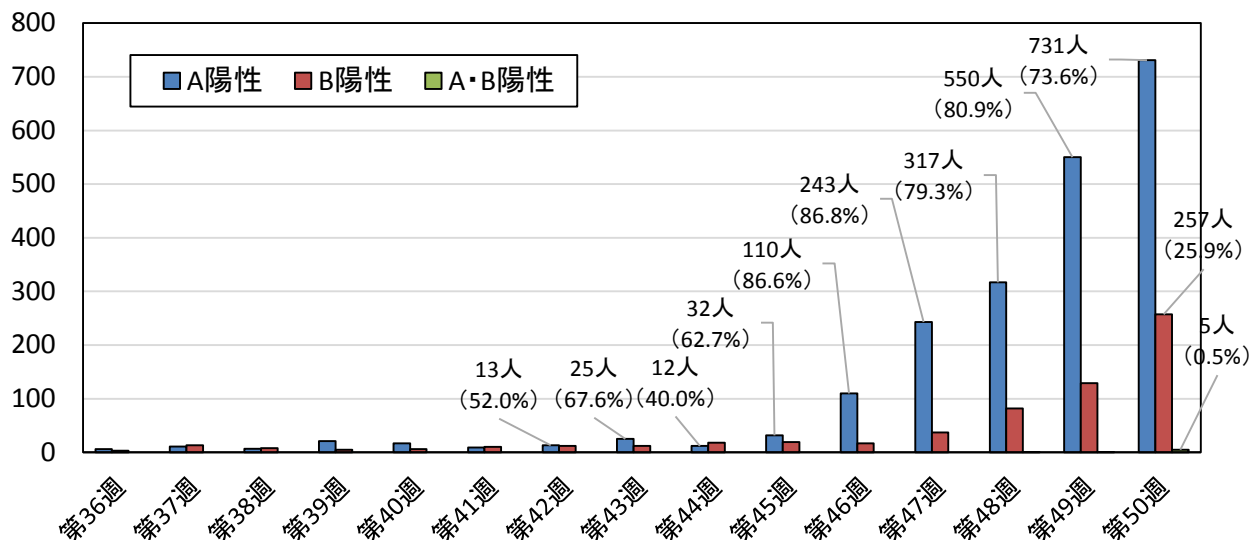
5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※5}におけるインフルエンザ入院患者は、第 50 週までに累計 20 人の報告があり、うち、15 歳未満が 6 人、60 歳以上が 11 人となっており、小児と高齢者の報告が多くなっています。第 50 週は 2 人の報告がありました。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU 入室、人工呼吸器の使用、頭部 CT 検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第 50 週では 1 人の報告がありました。

※5 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

6 迅速キット結果:第 50 週の迅速キットの結果は、A 型 73.6%、B 型 25.9%、A・B 型ともに陽性 0.5%で、A 型が多く検出されています。今シーズン累計では、A 型 76.8%、B 型 22.9%、A・B 型ともに陽性 0.3%となっています。

横浜市の患者定点医療機関における
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)



7 市内病原体検出状況:市内では病原体定点^{※6}から AH1pdm(21 株)、AH3(10 株)、B(山形系統)(21 株)が分離・検出され、B ビクトリア系統は市内にて分離・検出されていません。

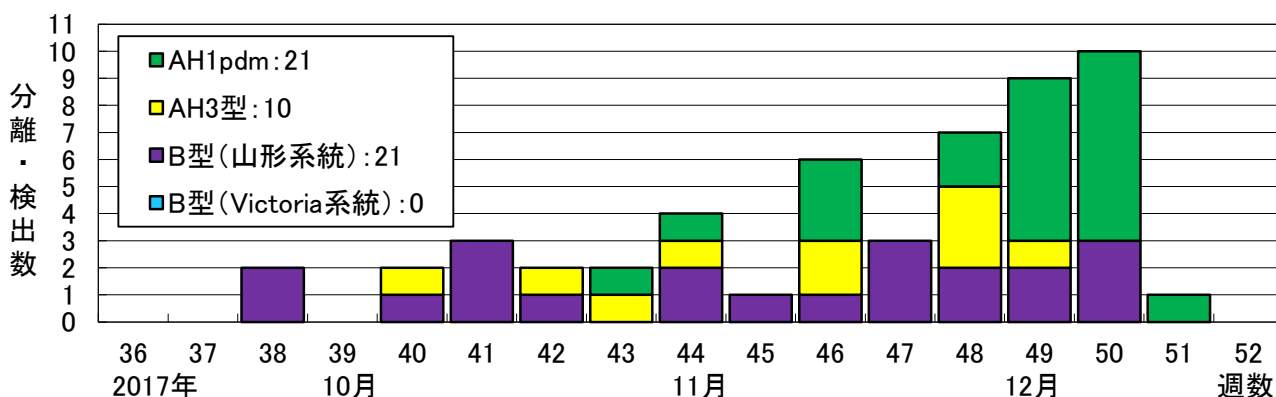
全国では、第 45 週から第 50 週で AH1pdm が AH3 よりも多く分離・検出されています^{※7}。

※6 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に 17 か所あります。うち、インフルエンザについては 12 か所にて採取されています。

※7 [週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数\(国立感染症研究所、12 月 15 日現在\)](#)

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

(2017 年 12 月 20 日現在)

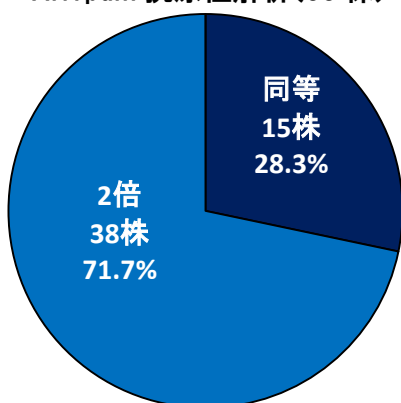


【参考】ワクチン株との抗原性解析について

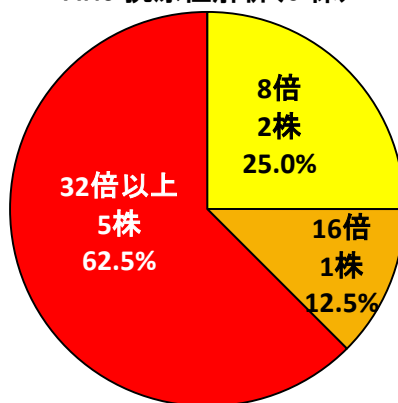
市内で分離された株(細胞培養した 91 株、12 月 20 日現在)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)を実施しました。あくまでもウサギの血清を使っているため参考値ですが、ワクチン類似とされているのは 4 倍以内です。AH3(8 株)はすべて 8 倍以上、AH1pdm(53 株)と B 山形系統(30 株)は、すべて 4 倍以内となっています。正式な結果は国立感染症研究所での分析を待つ必要がありますが、時間がかかることが予想されます。

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析

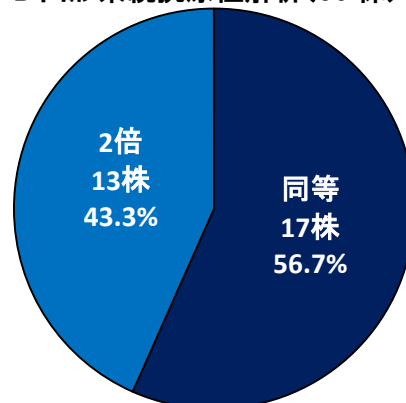
AH1pdm 抗原性解析(53 株)



AH3 抗原性解析(8 株)



B 山形系統抗原性解析(30 株)



■ 同等 ■ 2倍 ■ 4倍 ■ 8倍 ■ 16倍 ■ 32倍以上

※参考リンク

近隣自治体の流行状況

○神奈川県 ○川崎市 ○東京都

全国の流行状況

○国立感染症研究所

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2445